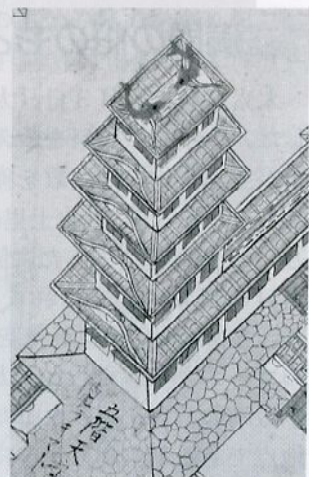
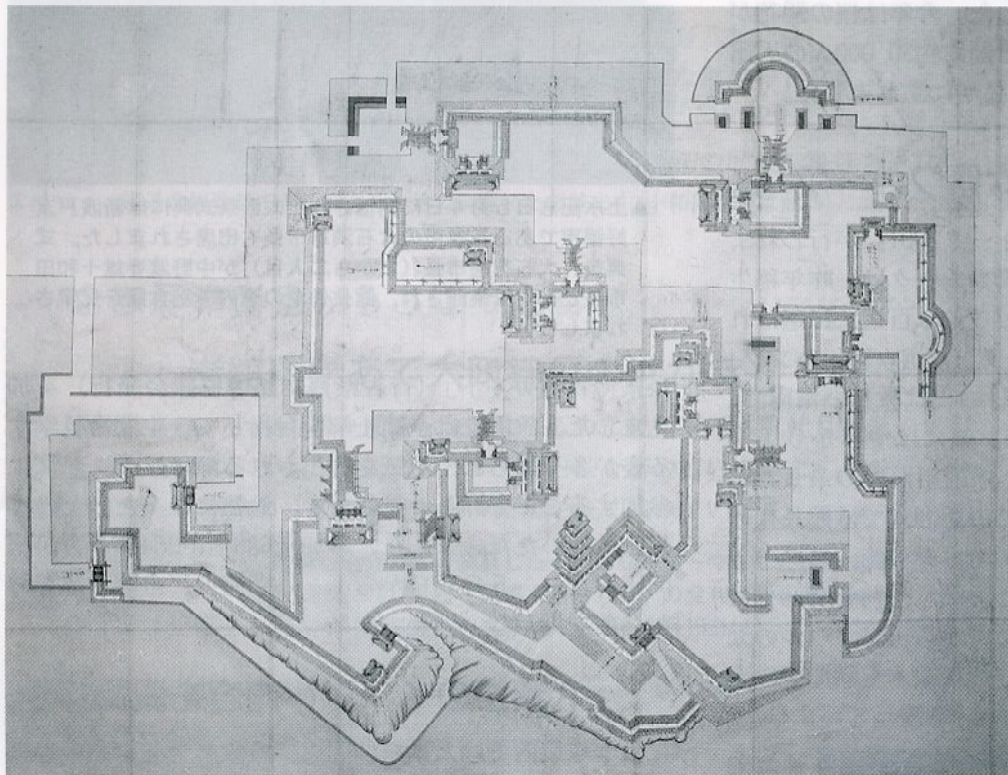


# 十和田市立 新渡戸記念館だより

## 収蔵資料紹介

資料名：城見取図  
年代：江戸時代末



縦四二・四×横六一・〇 (cm)

▲五階天守部分の拡大。立体的に描写され、絵図全体に美しい彩色がほどこされている

### 新渡戸記念館の兵法資料

新渡戸家は代々兵法を重んじ、新渡戸<sup>これたみ</sup>維民（新渡戸稲造の曾祖父）は南部盛岡藩の兵法学者でした。その子・傳、孫・十次郎も兵法をよく学び、特に十次郎は藩主・利剛公<sup>としひさ</sup>の兵学御相手も務めています。上杉流（謙信流）の兵法を代々学んでおり、当館にはこうした城郭図をはじめとする江戸時代の兵法資料が多く残されています。

## 太素顕彰会の組織が変わりました

昨年度から、十和田市立新渡戸記念館の運営は太素顕彰会を市の指定管理者として新しい形に移行しましたが、さらに本年度から、歴代市長が歴任してきた会長を、副会長であった十和田商工会議所会頭が務めることになりました。これにより十和田市長は顧問となり、副会長は稲生川土地改良区理事長、十和田市町内会連合会会長が務めます。また、当館館長が務める常任理事の職名を専務理事と改め、商工会議所専務理事を常務理事兼事務局長とし、商工会議

所職員が兼任する形で事務局職員1名を商工会議所内に置きます。歴代の町長、市長を会長とする運営は、明治4年（1871）太素・新渡戸傳翁の没後間もなく、太素顕彰会の前身である太素講が置かれた当初からのものです。140年近く続いた組織体制の長い歴史に終止符が打たれ、官から民へ完全な移行が行われましたが、新体制となりました太素顕彰会に対しましても、皆様の暖かいご支援ご協力をお願いします。



太素顕彰会顧問  
中野渡春雄  
(十和田市長)



太素顕彰会会長  
石川 正憲  
(十和田商工会議所会頭)



太素顕彰会副会長  
熊野 清一  
(稲生川土地改良区理事長)



太素顕彰会副会長  
工藤 行雄  
(十和田市町内会連合会会長)

太素顕彰会常務理事・事務局長 櫻田 一雅  
(十和田商工会議所専務理事)

事務局職員 添野 雅子  
(十和田商工会議所総務課)



## 平成19年 稲生川上水149年記念 太素祭開催 -5月3日~5日-

稲生川上水149年記念太素祭が太素塚境内を中心に5月3日(木)~5日(土)行われました。今年は桜の開花が遅れたためちょうど満開で、3日間に約30,000人の人出があり、記念館には約3,000人が見学に訪れました。

### 満開の桜のもとで太素ウォーク

太素祭初日5月3日「太素ウォーク2007」が行われました。今年で7年目を数える太素ウォークは、昨年稲生川が全国1位の投票数を獲得して“疏水百選”に選ばれたことにちなみ、「水土里の路 疏水百選ウォーキング」として実施されました。開催前日の夜は激しい雷雨で、当日の天気心配されましたが、朝にはすっかり上がり、参加者約170人が青空のもと稲生川沿いの最長22kmのコースを歩きました。太素塚での開会式では館長代理が激励の言葉を述べました。参加者はその後、スタート地点である稲生川取水口にバスで移動し午前9時30分に出発、途中関連する史跡を見学しながら再びゴールの太素塚を目指しました。稲生川沿いの桜並木も満開で、春風の中、参加者たちは気持ちのいい汗を流していました。



▲ 記念館前での開会式に集まった太素ウォーク参加者の皆さん

### “国際博物館の日記念” クイズ大会を実施

記念館では例年通り、太素祭期間中市民以外にも無料で公開するとともに、クイズ大会を開催しました。8年目を数えたクイズ大会ですが、今年は5月18日の“国際博物館の日”にちなみ“国際博物館の日記念”クイズ大会—クイズで探検！ニトちゃんとおそぼう!!—と題して開催しました。国際博物館の日は、国際博物館会議 ICOM (通称イコム) が1977年に制定したもので、毎年定められるテーマにしたがって世界中の博物館で様々なイベントが行われています。“国際博物館の日記念”として、今年は三本木原開拓や新渡戸稲造に関する問題以外に国際博物館の日になんだ問題を出題し、記念館出版物やニトちゃんグッズなどの例年の賞品のほかに「青



▲ 上水記念日5月4日に開催された太素祭式典には新渡戸友好都市である花巻市の大石満雄市長も出席されました。式典後、大石花巻市長(右から二人目)が中野渡春雄十和田市長とともに来館され、館長代理の案内で記念館を見学されました

森県博物館ガイド」(青森県博物館等協議会発行)を加えました。館内では全問正解を目指して一生懸命見学する姿が多く見られ、用紙を提出される際には「クイズに参加することで詳しく見学でき、勉強になった」との感想を多くいただきました。参加者636名中354名の方が全問正解され、5月6日から1ヶ月間館内に全問正解者のお名前を掲示し、抽選で50名へ賞品を贈呈しました。

### 太素祭のイベント内容を変更

太素塚境内では太素祭期間中、特設ステージを中心に様々なイベントが開催されました。昨年からの体験型イベント「子供チャレンジ」を加えるなど、内容に検討を加えてきましたが、今年は例年太素祭の最終日である5月5日「こどもの日」に実施していたテレビ番組のキャラクターショーに代えて、大道芸などのパフォーマンスを太素塚境内と太素塚前歩行者天国で行いました。人気のキャラクターが来ないということで、最終日は子供たちの数が例年より少ないようでしたが、集まった観客は間近で見ることが出来る臨場感あふれる芸の数々を大いに楽しんでいました。



▲ 記念館前での大道芸パフォーマンス

### 新渡戸記念館ホームページの リニューアルを進めています!

平成11年の開設から8年が経過し、ホームページのデザインや機能を見直す必要が出てきました。より使いやすく見やすいものにしようと、検討を重ねていますのでどうぞご期待下さい。



平成19年 8 月 1 日(水)～ 9 月30日(日)開催予定

# 稲生川上水149年記念企画展

## 三木野八景 ～伝えたいふるさとの風景～



◀三木野八景を選定した岩館精素  
新渡戸家四天王の一人・岩館善八の長男。大正時代、産馬組合の書記長を務めるとともに、歌人・識者として三本木の文化向上に尽くしました

大正時代の三本木の歌人・岩館精素が選定した「三木野八景」は、三本木原開拓ゆかりの名勝地について、春夏秋冬を和歌であらわし、開拓の歴史の継承と当地の魅力的な風景のPRを試みたものです。時代の移り変わりとともに風景は変わり、この「三木野八景」も失われつつあります。本展では、「三木野八景」の今昔をイラストと写真で示し、関連する開拓資料とともに展示することで、三本木原開拓の歴史に裏打ちされた十和田市の風景の魅力を掘り起こします。 ※通常観覧料で常設展とあわせて御覧いただけます(十和田市民は無料) 場所：十和田市立新渡戸記念館1階企画展示コーナー

### 企画展準備室からちょっと紹介

#### 岩館精素あて大町桂月のはがき

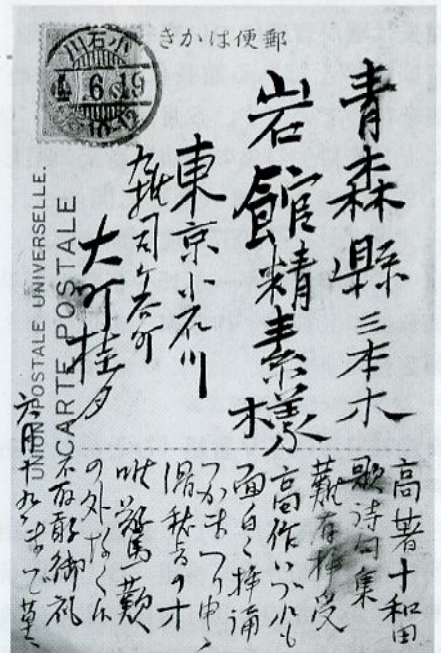
岩館精素は、十和田湖の景勝を全国的に広めた紀行家・大町桂月が当地を訪れる際に、三本木の文化人として案内役を務めていました。その関わりから、岩館のもとに桂月からの葉書が多く残っています。

写真は岩館精素が編集した十和田湖をテーマとした詩歌集 ▶ 『十和田歌詩句集』[大正4年(1915)]の発刊に対する大町桂月からのお祝いの葉書(大正4年6月19日付)

#### <はがきの解説>

青森縣三本木 岩館精素様  
東京小石川 雑司ヶ谷町 大町桂月

高著十和田歌詩句集 難有<sup>ありがたく</sup>拝受 高作いづれも面白<sup>はいしよう</sup>く 拝誦<sup>もうし</sup>つかまつり申  
候 滑稽の才唯驚嘆の外なく候 不取敢<sup>とりあえず</sup>御礼まで 草々 六月十九日



## レポート 太素塚の再生と 山野草のオアシス化

### 市民の協力で山野草のオアシスに

数年前から太素塚境内の緑化に力を入れています。最近市民の皆さんの協力により多くの山野草が植えられ、「山野草のオアシス」となっています。寒い冬の間は目立たなかった草花が、春のこの時期一斉に咲き出すと、太素塚を訪れる方々から「この花は何ですか？」と声を掛けられることもしばしばです。そのため、太素塚境内の管理も担当する小笠原書記は、植物事典を片手に草花についての知識の研鑽に日々努めています。また、木立の小草として植えられるこうした草花のお蔭で、根元の土壌改良も順調に進み、今年の春も、太素塚の木々は元気に青々と美しい新緑を見せていました。

### またも山野草が盗掘される

太素祭の最終日である5月5日(土)、せっかくのご厚意で太素塚に植えていただいた山野草1株が盗掘されてしまいました。太素塚の緑化ボランティアとして活動下さっている石川原光雄さんが、早朝の見回りの折に見つけて教えて下さいました。一昨年の盗掘から2度目で、来館者の方々に美しい花を見てほしいと提供いただいたものが心無い人のために失われ、大変残念です。



◀ 山野草咲き乱れる 春の太素塚境内



### ありがとうございました

- 高橋謙悦さん(市内西十六番町)から3種類の山野草をいただきました。
- 佐藤倉吉さん(市内東十二番町)からさまざまな山野草をいただきました。

### 関連情報

#### ◆太素塚・春の清掃奉仕

5月7日(月) 大学通り老成会 様

ありがとうございました

#### ◆館長代理が音楽について各地で講演

音楽学博士である館長代理が、各地で音楽に関する講演を行っています。5月10日(木) 聖ウルスラ高等学校にて音楽科生対象の講演「音楽の楽しみ」を行いました。また、6月2日(土)に開催される大東文化大学オープンカレッジ2007年度春期講座で、音楽についての講座「音楽の世界パート15～音楽の玉手箱・名曲訪問～短調音楽の芸術美/作曲家・古寺ななえ氏とともに」の講師を務めます。

#### ◆青森朝日放送TV番組「ひとの風景あおもり」で新渡戸傳を紹介

三本木原開拓に尽力した新渡戸傳を紹介したABA青森朝日放送の30分TV番組「ひとの風景あおもり～新渡戸傳～」が平成19年3月24日(土)に放映されました。

開拓のエピソードをドラマ仕立てで紹介するなど、大変わかりやすい内容で、記念館へも番組を見た方々から多くの反響が寄せられました。



◀番組内では館長が案内役を務めました(テレビ画面より)

#### ◆青森公立大学1年生が都市計画をテーマにした演習で当館を見学

5月10日(木) 青森公立大学1学年演習「公共空間としての道路機能」を受講する生徒7名が見学に来館しました。この演習は十和田市の市街地について、主に街路づくりの基本構想、交通体系など計画行政や景観、ライ

フラインの問題、中心市街地の活性化について、現地調査をふまえて考える演習講座です。担当の天野巡一教授は、幕末の三本木原開拓で計画された碁盤の目状の市街地について、展示室の新渡戸十次郎による都市計画図の前に、「普通、江戸時代の道は“車”を考えずに作られるので狭いもの。しかし、十和田市街地については、幕末とはいえ150年も前に行われた街路計画がそのまま活用できている。それは後の車社会を見越した計画をしているということで、驚くべきものだと気が付いてほしい」と生徒の皆さんに熱心に話されていました。

### 活動報告

#### ◆博物館関係会議等への出席

5月23日(水) 青森県博物館等協議会理事会・総会(青森市)へ館長代理が出席しました。

#### ◆太素顕彰会理事・評議員会開催

3月28日(水) 10時から十和田市本庁本館議会議室において平成18年度第2回太素顕彰会理事会・評議員会を開催し、平成19年度事業計画案ならびに収支予算案が審議の上、原案通り可決されました。また、修復済みの資料として「和船図」「城見取図」「下野国全図 野州九郡」の3点を会議室内に展示し、理事評議員の皆さんに裏打ちの成果をお見せしました。

#### ◆デーリー東北新聞社に館長代理エッセイ連載中

4月18日(水) 付朝刊から、デーリー東北新聞の連載エッセイコーナー「ふみづくえ」に館長代理が寄稿しています。連載予定は平成20年3月まで毎月1回ですので、ぜひご覧下さい。

#### ◆廣池千九郎記念館へ新渡戸稲造資料を1年間貸出

新渡戸稲造と親交のあった道德教育家・廣池千九郎の事績を伝える廣池千九郎記念館(千葉県柏市)の企画展『廣池千九郎ゆかりの人-新渡戸稲造-』[会期:平成19年6月3日(日)～平成20年5月10日(土)]へ、当館展示資料より新渡戸稲造直筆の書や旧蔵書など7点を貸し出しました。内一点は、市内の津吉通正さんが当館に出品下さっている掛軸「貴きも/また賤しきも/世の中の/人の心の/中にこそあれ」です。

### 〈編集後記〉

桜花爛漫の下、無事に太素祭を終える事が出来ました。来年は上水150年、今を生きる我々にとって最大の節目にあたります。盛大に祝賀と参りましょう。皆様のご協力を宜しくお願いいたします。  
(館長代理 新渡戸常憲)

発行 太素顕彰会  
十和田市立新渡戸記念館  
☎034-0031 青森県十和田市東三番町24-1  
TEL (FAX) 0176-23-4430  
E-mail: nitobemm@hi-net.ne.jp  
http://www.towada.or.jp/nitobe/  
印刷 株式会社 岩間印刷